



1歳児期に芽生える感覚

0歳児の後半期から、1歳児にかけ社会性が急激に伸びる時期です。特に1歳児後半期の子ども達は、「大人や兄弟の真似（模倣）」をやりたくてたまらない時期となります。今回は、この「真似をしたくてたまらない」ことを保障することの大切さをお伝えします。



お手伝いから自信と関連づける力が育つ

子どもたちは、頼まれなくても様々なシーンでお手伝い（模倣）をやりたがります。

☆掃除機を使いたがる

☆クイックルワイパーを使いたがる

☆洗濯物を運びたがる

☆食器を運びたがる

☆車のドアを閉めたがる

☆テーブル吹きをやりたがる

☆人の帽子を先回りして渡す



など。日常の大人が行っている動作を「自分の力」でやりたがる時期となります。

最初はただの模倣ですが、だんだんと1歳児でも何故やるのか（理由）、いつやるのか（時間）、どうやるのか（手法）を察するようになってきます。これが、子ども達の「見通す力」となり更には周囲の物事を「関連付ける力」へと発展させていき、保育施設など外部の環境にて応用して使うようになります。また、道筋を知ったり、自分で行ったことの実感から「安心感」や「自信」となり社会を豊かに生きていくための基礎力となります。

是非、子どもだから、小さいから、危ないから、子どもが手伝った方が時間がかかるから、まだできないからという理由で「やらせない」のではなく、どの部分なら、どの時間であれば体験ができるのかを考えていきましょう。年齢が低いからこそ、自発的（本能）にやりたがる傾向にありますが、年齢が高くなると「面倒」な感覚が優先するため小さい頃から生活に触れる体験を増やしていきましょう！

家庭で何が体験できるか書き出してみましょう！

QRコードからLine@にお友達登録をいただくと、
毎週、子育て情報をお届けします！

